

毎日の運転に安心をもたらす高次元の安全性能。

市街地でも高速道路でも安心してドライブしていただくために高次元の安全性能を追求。クラストップレベル^{※1}の衝突安全性能を備えながら、軽自動車ではじめて^{※1}エマージェンシーストップシグナルを標準装備するなど、事故の危険性を低減する装備も充実させました。

リアルワールドでの安全を見据えた衝突安全性能

Honda独自のGコントロール技術により、「自己保護性能の向上」と「相手車両への攻撃性低減」を両立するコンパティビリティ対応ボディ。Nシリーズでは、新設計エンジンと新荷重分散構造を採用することで、従来軽自動車に対し70mmも短いエンジンルームでコンパティビリティ対応ボディを完成させました。これに加え側面衝突時の荷重を受け止めるシートロードパスや、後面衝突時の荷重を効果的に受け止めるストレートリアフレームなどにより、全方位で優れた衝突安全性能を実現しています。

サイドカーテンエアバッグシステムと前席用i-サイドエアバッグシステム(容量変化タイプ)を標準設定^{※2}(タイプ別設定)

サイドカーテンエアバックシステムは、側面衝突時に大人から子供までさまざまな体格の乗員の頭部や頸部を広範囲で保護。特にセンターピラーへの頭部衝突を防ぐ展開性能を実現しています。前席用i-サイドエアバックシステムは、エアバッグ内の気室を2層構造とした新開発の容量変化タイプ。展開の速度や圧力に変化を持たせることで乗員への衝撃を緩和しながら、優れた保護性能を発揮します。

軽自動車ではじめて^{※1}、エマージェンシーストップシグナルを全タイプに標準装備

急ブレーキ時、ハザードランプを自動的に高速点滅させ後続車に注意をうながす、エマージェンシーストップシグナルを、全タイプに標準装備しました。時速60km以上で急減速した場合やABSが連続して作動した場合に作動します。

VSA(車両挙動安定化制御システム)とHSA(ヒルスタートアシスト機能)を全タイプに標準装備

横すべりなどクルマの急激な挙動変化を抑えるVSAと、坂道発進時の後退を抑制するHSAを、全タイプに標準装備しました。VSAは、2011年11月1日に施行された新基準ESC法規に適合しており、2014年10月1日から施行される装着義務についても先行して適用しています。

頭部や脚部などに対する衝撃吸収構造を採用した、歩行者傷害軽減ボディ

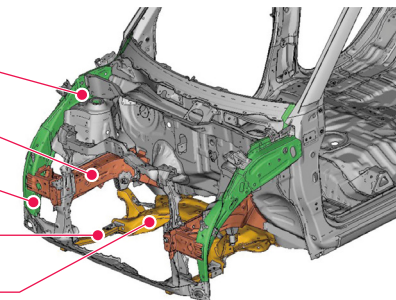
万一の際、歩行者にダメージを与えやすいボディ前部に衝撃をやわらげる構造を採用。ボンネットヒンジ部、フロントウインドウ支持部、ワイパー、ボンネット、バンパー、フェンダーを、衝撃吸収構造としています。

※1 2012年10月現在 Honda調べ

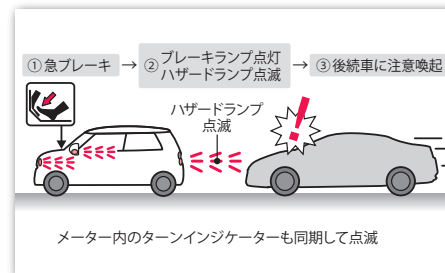
※2 サイドカーテンエアバッグシステムはLパッケージに標準装備。前席用i-サイドエアバッグシステムはPremium Tourer・Lパッケージに標準装備(左記以外のLパッケージにメーカーオプション)。

コンパティビリティ対応ボディ

- **アッパーフレーム**
上部のエネルギー吸収
- **メインフレーム**
高効率なエネルギー吸収
- **ロアメンバー**
相手車両の衝撃吸収部材とのすれ違いを防止
- **アンダーロードパス**
衝突初期のエネルギー吸収
- **パワープラントロードパス**
パワープラントから入力するエネルギーをサブフレームで吸収



エマージェンシーストップシグナル作動イメージ図

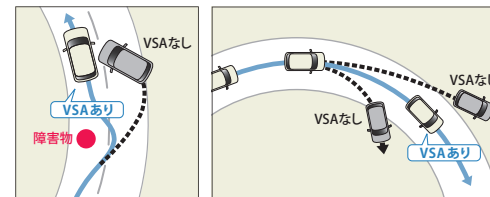


エアバッグシステム展開イメージ



- 運転席用i-SRSエアバッグシステム(連続容量変化タイプ) & 助手席用SRSエアバッグシステム
- 前席用i-サイドエアバッグシステム(容量変化タイプ)
- サイドカーテンエアバッグシステム

VSA作動イメージ図



HSA作動イメージ図



ブレーキ時の車輪ロックを防ぐABS、加速時などの車輪空転を防ぐTCS、旋回時の横すべり抑制、3つの機能をトータルにコントロールすることでクルマの急激な姿勢変化を抑え、安定した走りをアシストします。

坂道発進時、ペダルを踏み換える瞬間のクルマの後退を約1秒間抑制します。